

平成29年

災害の記録

鹿児島県

はじめに

平成29年中の災害による本県の被害額は、約140億円となりました。

主なものとしては、8月4日から5日にかけて奄美大島付近を通過し、6日に県本土に接近した台風第5号により、2名の尊い命が失われるとともに公共土木施設等に甚大な被害が生じました。

火山災害においては、桜島において活発な火山活動が継続し、年間81回の爆発が発生し、降灰による農作物への被害額は、約56億円に上りました。

また霧島山の新燃岳においては6年ぶりとなる小規模噴火が発生し、噴火警戒レベルが2から3へ引き上げられるなど、火山活動がやや活発化しました。

自然災害による被害を受けやすい本県においては、防災対策を県政の重要課題のひとつとして平成20年4月に施行した「県防災対策基本条例」に基づき、県民が自らの身は自ら守る「自助」、地域の住民がお互いに助け合って地域の安全を確保する「共助」、市町村、県及び防災関係機関が行う「公助」を基本として、各主体がそれぞれの役割と責任のもとに連携・共同して防災対策を着実に行うこととし、各般にわたる様々な施策の積極的な推進に取り組んでいるところです。

今後とも県民の生命、財産を守るため、市町村や防災関係機関等と緊密な連携を図りながら災害の未然防止に万全を期して参りたいと考えています。

ここに、平成29年中に県内で発生した災害を収録しましたので、今後の防災対策の参考にさせていただければ幸いです。

最後に本誌の編集に当たり、御協力いただきました関係者の方々に深く感謝申し上げます。

平成31年3月

鹿児島県危機管理局危機管理防災課長 玉利 雅昭

目 次

第1	災害の概況	・・・・・・・・	1
第2	被害総括表	・・・・・・・・	2
第3	降雨災害		
1	1月7日～8日の大雨・洪水	・・・・・・・・	7
2	4月8日の大雨	・・・・・・・・	11
3	4月10日の降雨	・・・・・・・・	16
4	4月16日の大雨	・・・・・・・・	21
5	5月12日の大雨・洪水	・・・・・・・・	26
6	5月13日の降雨	・・・・・・・・	32
7	6月11日の大雨・洪水	・・・・・・・・	36
8	6月12日～14日の降雨	・・・・・・・・	41
9	6月20日～21日の大雨・洪水	・・・・・・・・	47
10	6月22日の大雨・洪水	・・・・・・・・	53
11	6月23日の大雨・洪水	・・・・・・・・	58
12	6月24日～25日の大雨・洪水	・・・・・・・・	63
13	6月27日の大雨・洪水	・・・・・・・・	69
14	6月30日の大雨・洪水	・・・・・・・・	72
15	7月1日の大雨・洪水	・・・・・・・・	77
16	7月5日の大雨・洪水	・・・・・・・・	81
17	7月5日～6日の大雨・洪水	・・・・・・・・	84
18	7月7日～8日の大雨・洪水	・・・・・・・・	90
19	7月19日の大雨	・・・・・・・・	97
20	7月24日の大雨	・・・・・・・・	102
21	7月26日の大雨	・・・・・・・・	105
22	7月27日の大雨	・・・・・・・・	108
23	8月10日の大雨	・・・・・・・・	112
24	9月4日～5日の大雨・洪水	・・・・・・・・	116
25	9月12日の大雨	・・・・・・・・	123
26	9月22日の大雨・洪水	・・・・・・・・	128
27	9月27日の大雨・洪水	・・・・・・・・	133
28	10月14日の大雨・洪水	・・・・・・・・	138
29	10月15日の大雨・洪水	・・・・・・・・	141
30	10月16日の大雨・洪水	・・・・・・・・	145
31	10月17日の大雨	・・・・・・・・	148
32	10月18日の降雨	・・・・・・・・	151
33	11月13日～14日の大雨	・・・・・・・・	156

34	11月17日～18日の大雨・洪水	160
第4 台風災害		
1	7月4日の台風第3号	166
2	8月4日～7日の台風第5号	174
3	9月16日～17日の台風第18号	195
4	10月21日～22日の台風第21号	209
5	10月28日～29日の台風第22号	222
第5 地震・津波災害		
1	7月11日の地震	236
2	8月24日の地震	239
3	11月1日の地震	241
第6 その他災害		
1	1月20日の暴風	242
2	1月25日の霜害・寒害	247
3	2月9日～10日の暴風雪	254
4	2月20日の落雷	265
5	7月7日の突風	269
6	7月8日の落雷	273
7	12月14日の低温	279
第7 火山の活動状況及び被害状況		
1	桜島	283
2	霧島山（新燃岳，御鉢，えびの高原（硫黄山））	295
3	薩摩硫黄島	318
4	口永良部島	324
5	諏訪之瀬島	326
第8 参考資料		
1	平成29年災害気象名別被害額一覧表	329
2	平成29年災害年報	330
3	平成29年局地激甚災害指定	334
4	平成29年警報発令状況	335
5	平成29年地震発生状況	344
6	平成29年火山情報発表状況	345
7	平成29年避難勧告等発令状況	346
8	平成29年台風発生状況（台風の発生数と接近・上陸数）	348
9	平成29年火災発生状況	351
10	平成29年出火原因別火災件数	352
11	鹿児島県におけるプロパンガス事故の発生状況	353
12	噴火警戒レベルとは	355
13	特別警報について	356

平成 29 年の鹿児島県内の天気の特徴

1 月は、薩摩・大隅地方、種子島・屋久島地方では、気圧の谷や低気圧が通過した後に冬型の気圧配置になるなど天気は周期的に変化した。奄美地方は、寒気や気圧の谷の影響で曇りや雨の日が多かった。7 日から 8 日にかけて、種子島・屋久島付近を低気圧が通過したため大気の状態が不安定となり雷雨が発生した。中之島では 7 日に 1 月の極値を更新する 112.0 ミリの日最大 1 時間降水量を観測し、日降水量も 218.0 ミリと 1 月の極値を更新した。20 日は強い冬型の気圧配置により、暴風となった所もあり荒れた天気となり、鹿児島では初雪（平年より 18 日遅い）を観測した。23 日にも強い冬型の気圧配置となり、鹿児島でみぞれを観測。25 日に日最低気温の低い方からの 1 月の極値を更新した後の 29 日に、日最高気温の高い方からの 1 月の極値を更新した所もあるなど、後半は寒暖差が大きくなった期間があった。

2 月は、薩摩・大隅地方、種子島・屋久島地方では、数日の周期で気圧の谷が通過し、その後に冬型の気圧配置となった日があった。奄美地方は、気圧の谷や寒気の影響で曇りや雨の日が多かった。強い寒気が流れ込んだ 9 日から 10 日にかけては、荒れた天気となり薩摩地方の山地を中心に大雪となった。また、名瀬ではあられを観測した。17 日は南寄りの風が強まって「春一番」が吹いた。寒冷前線が短い周期で通過したため、20 日に紫尾山で 2 月の極値を更新する日最大 1 時間降水量 42.0 ミリを観測するなど、激しい雨となった日があった。

3 月は、薩摩・大隅地方、種子島・屋久島地方では、高気圧と低気圧が交互に通過して天気は数日の周期で変わった。奄美地方では、低気圧や前線の影響で曇りや雨の日が多かった。気圧の谷の通過した後に冬型の気圧配置となり、2 日、8 日、26 日から 27 日にかけては、強い寒気が流れ込んだため雷雨や荒れた天気となった。13 日と 20 日は、九州の南を低気圧が東に進んだため、十島村では 100 ミリを超える大雨となり、種子島・屋久島地方でもまとまった雨が降った日があった。

4 月は、高気圧に覆われた日と低気圧や前線、湿った空気の影響を受けた日が交互に続き、周期的に天気は変化した。5 日から 11 日は曇りや雨の日が続いた。7 日は八重山で 34.0 ミリの日最大 1 時間降水量を観測して 4 月の極値を更新し、10 日、16 日、26 日にも日降水量が 100 ミリを超える大雨になった所があった。16 日から 18 日は大雨や荒れた天気となった所があり、16 日は中之島で 4 月の極値を更新する 159.0 ミリの日降水量を観測した。

5 月は、前線や気圧の谷の影響で曇りや雨の日が多かったが、後半は薩摩・大隅地方、種子島・屋久島地方では、高気圧に覆われて晴れた日が多くなった。奄美地方は 5 月 13 日ご

ろ（平年より2日遅く、昨年より3日早い）に梅雨入りしたと見られる。12日から13日にかけては、前線を伴った低気圧が九州を東に進んだため広い範囲で大雨となり、中甕で107.5ミリの1時間降水量を観測し年の極値を更新するなど、薩摩地方で記録的な大雨となった。

6月は、はじめは晴れる日が多かったが、後半にかけて梅雨前線が九州南部付近に停滞した日もあり、曇りや雨の日が多くなった。13日は与論島で44.5ミリの激しい雨が降り日最大1時間降水量の6月の極値を更新した。20日には屋久島で300ミリ以上、内之浦で250ミリ近い日降水量を観測するなど広い範囲で大雨となった。九州南部は6月6日ごろ（平年より6日遅く、昨年より13日遅い）梅雨入りしたと見られ、奄美地方は6月29日ごろ（平年並み、昨年より11日遅い）梅雨明けしたと見られる。

7月は、薩摩・大隅地方、種子島・屋久島地方では、前半は前線や湿った空気の影響で曇りや雨の日が多く、日降水量が100ミリを超える大雨の日もあった。後半は、湿った空気と強い日射の影響で大気の状態が不安定となり、山沿いを中心にわか雨の日が多く激しい雷雨となった日もあった。九州南部は13日ごろ（平年より1日早く、昨年より5日早い）に梅雨明けしたと見られる。奄美地方では、湿った空気の影響で雲の広がりやすい時期もあったが、高気圧に覆われて晴れた日が多かった。

8月は、高気圧に覆われ晴れた日が多かったが、4日から6日は台風第5号の影響で、大雨や大荒れの天気となった。奄美地方では名瀬で500ミリを超える日降水量を観測し、8月の極値を更新したほか、日降水量や日最大1時間降水量の年間や月の極値を多くの地点で更新するなど記録的な大雨となった。また日最低気温、日最高気温ともに高い方からの年間の極値を更新するなど、ほとんどの地点で平年よりかなり高くなった。

9月は、前線や湿った空気の影響で曇りや雨の日が多く、大雨となった日があった。4日から5日にかけて、種子島・屋久島地方や奄美地方で局地的に猛烈な雨が降り、喜界島では月の、屋久島では年の日最大1時間降水量の極値を更新した。また、17日は台風第18号が南九州市付近に上陸し大荒れの天気となり、薩摩・大隅地方では日降水量が100ミリを超える大雨となった所があった。

10月は、薩摩・大隅地方、種子島・屋久島地方では、はじめ晴れる日も続いたが、曇りや雨が続く日が多かった。奄美地方では、前半は高気圧に覆われて晴れた日が多かったが、後半は曇りや雨の日が多くなった。21日から22日は台風第21号の影響で、28日から29日は台風第22号の接近で大荒れの天気となり大雨の所があった。28日に中之島で10月の極値を更新する171.0ミリの日降水量を観測し、29日には薩摩半島南部や大隅半島で日最大

1 時間降水量の 10 月の極値を更新した所があった。

11 月は、薩摩・大隅地方、種子島・屋久島地方では、天気は周期的に変化したが、前半は高気圧に覆われて晴れた日が多く、後半は気圧の谷や寒気の影響で曇りや雨の日が多かった。奄美地方では、気圧の谷や寒気の影響で曇りや雨の日が多く、17 日から 18 日にかけて前線を伴った低気圧の影響で荒れた天気となり、日降水量が 100 ミリを超える大雨となった所があった。後半に寒気の流れ込みが強まったため気温が平年よりかなり低い日があり、21 日には溝辺や内之浦で日最低気温の低い方からの 11 月の極値を更新した。

12 月は、薩摩・大隅地方、種子島・屋久島地方では、前半は気圧の谷が短い周期で通過したため、数日の周期で天気は変化した。気圧の谷が通過した後は、冬型の気圧配置となって強い寒気が流れ込んだ。後半は大陸の高気圧に覆われて晴れた日が多くなった。なお 7 日に鹿児島で初霜を、13 日には初氷を観測した(初霜は平年より 3 日早く、初氷は平年並み)。奄美地方では、気圧の谷や寒気の影響で曇りや雨の日が多かった。

1 年間の平均気温は、阿久根 17.3 度(平年+0.1)、鹿児島 18.6 度(平年と同じ)、枕崎 18.1 度(平年と同じ)、屋久島 19.5 度(平年+0.1)、種子島 19.5 度(平年-0.1)、名瀬 21.8 度(+0.2)、沖永良部 22.8 度(平年+0.4)と、種子島で低く、名瀬で高くなり、沖永良部ではかなり高くなったが、そのほかは平年並みだった。

年間降水量は、阿久根 2181.5 ミリ(平年比 106%)、鹿児島 2274.0 ミリ(平年比 100%)、枕崎 2132.5 ミリ(平年比 98%)、屋久島 4795.0 ミリ(平年比 107%)、種子島 2845.0 ミリ(平年比 121%)、名瀬 2911.0 ミリ(平年比 103%)、沖永良部 1421.5 ミリ(平年比 77%)と、沖永良部で少なくなったが、ほかは平年並みか多くなった。

年間の日照時間は、阿久根 2075.8 時間(平年比 106%)、鹿児島 2027.2 時間(平年比 105%)、枕崎市 1979.6 時間(平年比 103%)、屋久島 1610.9 時間(平年比 105%)、種子島 1906.6 時間(平年比 106%)、名瀬 1352.9 時間(平年比 99%)、沖永良部 1879.5 時間(平年比 100%)と、名瀬と沖永良部で平年並みとなったが、ほかは多くなった。

第1 災害の概況

- 降雨災害
雨による被害が公共土木施設や農林水産業を中心に発生した。被害額は約29億円となり、年間被害総額の約21%であった。
- 台風災害
平成29年中には、1個の台風が本県に上陸、3個の台風が本県に接近し、被害をもたらした。8月4日から8月7日にかけて接近した台風第5号は、県全体に被害をもたらした。被害額は約31億5千万円となった。
また、台風災害による年間被害額は約51億9千万円であり、年間被害総額の約37%であった。
- 地震・津波災害
7月11日に、鹿児島湾を震源とする地震により本県では最大震度5強を観測した。これにより、公共施設に被害が発生した。
地震による被害総額は約7千万円となった。
- その他の災害
平成29年中は、大雪や突風、落雷等により農作物等を中心に被害が発生した。被害額は、約2億3千万円となった。
- 火山災害
桜島の降灰により、野菜等の農作物に被害をもたらした。被害額は約55億9千万円となり、年間被害総額の約40%であった。

◆ 災害種別被害額

平成28年被害総額 39,159,210千円

種 類	被害額（千円）
降 雨 災 害	2,900,710
台 風 災 害	5,192,108
地震・津波災害	70,255
そ の 他 災 害	233,883
火 山 災 害	5,591,163
合 計	13,988,119千円

◆ 平成28年の梅雨時期

鹿児島地方 } 6月6日ごろ～7月13日ごろ
種子島・屋久島地方 } (5月24日ごろ～7月18日ごろ)

奄美地方 } 5月13日ごろ～6月29日ごろ
(5月16日ごろ～6月18日ごろ)

※ () 内は、平成28年の梅雨時期

第2 被害総括表

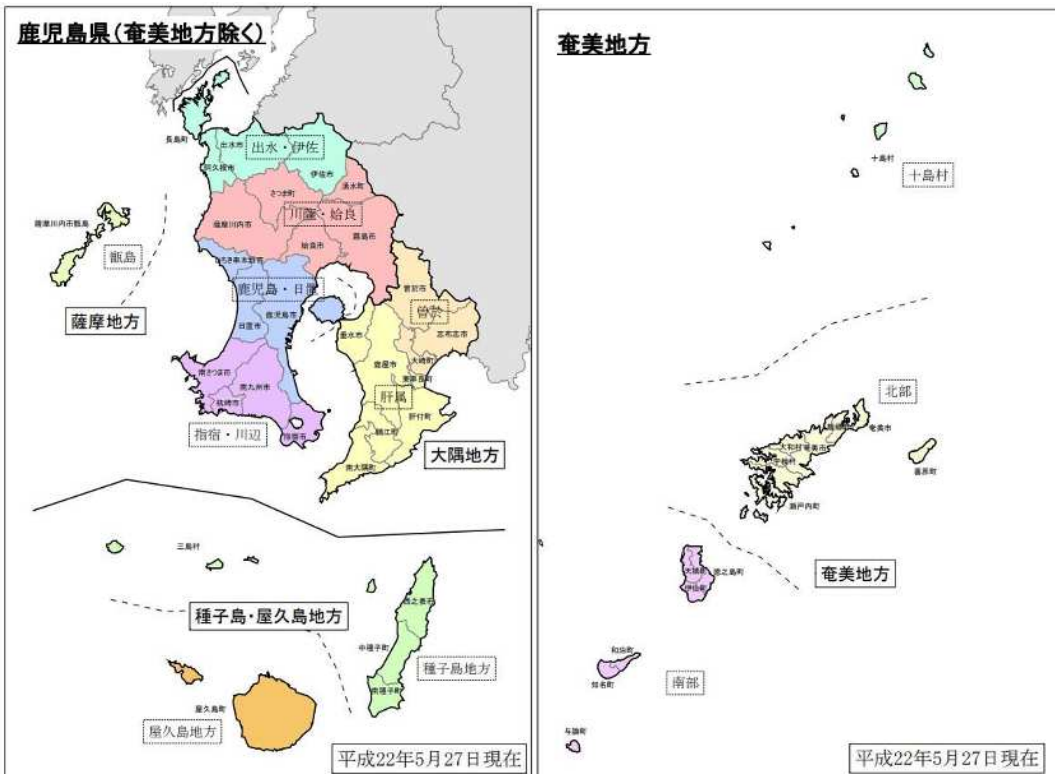
区 分		被害数	単位	被害額(千円)	区 分	被害数	単位	被害額(千円)		
人 的 被 害	死 者	3	人		衛 生 福 祉 関 係 の 被 害	病院・診療所等	1	棟	500	
	行方不明		人			水道施設	10	箇所	2,273	
	重 傷 者	1	人			清掃施設		〃		
	軽 傷 者	13	人			福祉施設	2	〃	2,599	
	合 計	17	人			そ の 他	1	〃	1,347	
				合 計		14	〃	6,719		
住 家 の 被 害	全 壊	棟 数	2	棟	農 作 物 の 被 害	水 陸 稲	60.00	ha	8,430	
		世 帯 数	2	世帯		麦 類		〃		
		人 員	5	人		雑穀いも豆類	2,775.00	〃	85,401	
	半 壊	棟 数	4	棟		野 菜	3,036.00	〃	3,432,879	
		世 帯 数	4	世帯		果 実	629.00	〃	512,831	
		人 員	4	人		工 芸 作 物	27,636.00	〃	1,206,526	
	一 部 破 損	棟 数	292	棟		飼 料 用 作 物	1,047.00	〃	828,444	
		世 帯 数	298	世帯		花 き	28.00	〃	346,579	
		人 員	520	人		桑		〃		
	床 上 浸 水	棟 数	59	棟		茶		〃	1,207,707	
		世 帯 数	59	世帯		樹 体		〃		
		人 員	102	人		そ の 他	315.00	〃	217,401	
	床 下 浸 水	棟 数	389	棟		合 計	35,526.00	〃	7,846,198	
		世 帯 数	397	世帯		農 地	田	99	箇所	
		人 員	661	人			(流出埋没)	17.00	ha	
	棟 数	746	棟	畑			235	箇所		
世 帯 数	760	世帯	(流出埋没)	26.00	ha	245,000				
人 員	1,292	人	関 係 の 被 害	た め 池	2	箇所	20,000			
合 計	棟 数	4		棟	頭 首 工	7	〃	69,000		
	世 帯 数	4		世帯	水 路	148	〃	377,000		
	人 員	12		人	道 路	81	〃	299,000		
					橋りょう	213	〃	966,000		
非 住 家 の 被 害	公 共 建 物	棟 数		4	棟	農 業 用 の 施 設		〃		
		全 壊			揚 水 機		〃			
	半 壊		そ の 他		〃					
そ の 他	棟 数	55	棟	合 計	785	〃	2,106,000			
	全 壊				家畜等の被害	1		514		
半 壊										

区 分				被害数	単位	被害額(千円)	区 分				被害数	単位	被害額(千円)
農業生産用資材施設	耕種関係			棟			土木関係の被害	国庫負担対象	国 交 省 港 湾	県工事	1	箇所	60,038
	畜産関係		85	"	64,933	市町村				2	"	85,450	
	蚕糸関係			"		小計				3	"	145,488	
	園芸関係		336	"	42,703	農水省漁港		県工事	2	"	32,278		
	その他			"				市町村	2	"	21,492		
	合計		421	"	107,636			小計	4	"	53,770		
水産関係の被害	漁船		15	隻	6,150	被害	合計		173	"	2,884,794		
	漁具		1	統	300		その他	1,036	"	437,469			
	施設その他		9	件	12,395		総計	1,209	"	3,322,263			
	合計				18,845								
鉱工業関係被害							学校関係の被害	高等学校		35	校	35,260	
商業関係の被害	店舗		2	棟	10,000	中学校		34	"	27,084			
	その他施設			件		小学校		69	"	26,436			
	商品			件		その他		13	"	3,845			
	合計		2		10,000	合計		151	"	92,625			
山林関係の被害	林地(崩壊地)			箇所		その他の公共施設被害		218	箇所	104,179			
	施設等被害	治山施設		21	"	221,600	鉄道の関係	鉄軌道関係			件		
		林道		16	"	135,807		線路工作物関係			"		
		林産施設		1	"	6,890		停車場工作物関係			"		
	林産物		1.00	ha	400	機械関係			"				
	合計		16		364,697	建築物関係			"				
					電気通信関係				"				
土木関係の被害	国庫負担対象	国 交 通 事 務 省 市 町 村 工 事	河川		47	箇所	683,988	被害	合計			"	
			砂防		1	"	41,655		電気通信関係被害		0	"	
			道路		28	"	841,621		電力関係被害		0	"	
			急傾斜			"			水道関係被害		1485	戸	
			橋りょう			"		警察関係の被害		57	件	8,444	
			海岸			"		交通安全施設の被害		0	"		
			その他			"		その他		0			
			小計		76	"	1,567,264	崖くずれ		20	箇所		
			河川		33	"	221,189	被害総額				13,988,120	
			道路		57	"	897,083						
			橋りょう			"							
			その他			"							
			小計		90	"	1,118,272						

鹿児島県内の気象官署・アメダス地点図



鹿児島県の注意報・警報細分区域



内容に関する説明

1. 雨の降り方の表現

1 時間雨量が 30 ミリ以上 50 ミリ未満の場合、「激しい雨」

1 時間雨量が 50 ミリ以上 80 ミリ未満の場合、「非常に激しい雨」

1 時間雨量が 80 ミリ以上の場合、「猛烈な雨」

また、期間の雨量が 100 ミリ以上を「大雨」という。

2. 平年値について

1981年～2010年の平均値を使用している。

3. 観測値の極値は2017年までの値

九州南部および奄美の梅雨入りと梅雨明け

年	九州南部		奄美	
	梅雨入り	梅雨明け	梅雨入り	梅雨明け
2000年	5月26日ごろ	7月15日ごろ	5月26日ごろ	6月21日ごろ
2001年	5月21日ごろ	7月20日ごろ	5月6日ごろ	6月23日ごろ
2002年	6月10日ごろ	7月21日ごろ	5月8日ごろ	6月30日ごろ
2003年	6月9日ごろ	7月22日ごろ	5月13日ごろ	6月27日ごろ
2004年	5月29日ごろ	7月11日ごろ	5月14日ごろ	6月24日ごろ
2005年	6月11日ごろ	7月15日ごろ	5月5日ごろ	6月27日ごろ
2006年	5月26日ごろ	7月25日ごろ	5月11日ごろ	6月22日ごろ
2007年	6月1日ごろ	7月18日ごろ	5月26日ごろ	6月28日ごろ
2008年	5月28日ごろ	7月6日ごろ	5月22日ごろ	7月2日ごろ
2009年	6月2日ごろ	7月12日ごろ	5月18日ごろ	7月5日ごろ
2010年	6月12日ごろ	7月20日ごろ	5月6日ごろ	7月15日ごろ
2011年	5月23日ごろ	7月8日ごろ	4月30日ごろ	6月22日ごろ
2012年	5月30日ごろ	7月23日ごろ	5月13日ごろ	6月29日ごろ
2013年	5月27日ごろ	7月8日ごろ	5月10日ごろ	6月29日ごろ
2014年	6月2日ごろ	7月16日ごろ	5月5日ごろ	7月4日ごろ
2015年	6月2日ごろ	7月14日ごろ	5月19日ごろ	7月6日ごろ
2016年	5月24日ごろ	7月18日ごろ	5月16日ごろ	6月18日ごろ
2017年	6月6日ごろ	7月13日ごろ	5月13日ごろ	6月29日ごろ
平年	5月31日ごろ	7月14日ごろ	5月11日ごろ	6月29日ごろ